

ぎかい



2022.7.15

小国町議会だより 第153号



Cedric Blattner さん

スマホ

からも
ご覧いただけます!

表紙関連記事は16ページ

6月定例会 全議案承認

主な内容

- | | |
|------------|--------|
| ■ 各課事業説明 | 2ページ～ |
| ■ 定例会 | 6ページ～ |
| ■ 一般質問5名登壇 | 9ページ～ |
| ■ 委員会報告 | 14ページ～ |

小国町議会

ホームページ <http://www.town.oguni.yamagata.jp/gikai/index.html>
e-mail gikai@town.oguni.yamagata.jp

小国町議会

検索

所管事務調査

今年度の主要施策について説明を受けました



令和4年度の主な事業内容について各課より説明を受けました。
質疑を通し議員が注目した施策について、概要を報告いたします。

総務厚生 常任委員会

町立病院、訪問看護
ステーション及び介
護老人保健施設

病床減床
町立病院の入院の病床数については、5月1日付け施行で10床減の45床で関係機関に届出を行った。

健康福祉課

新型コロナウイルス
予防接種の対応

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種は、3回目の接種が終了に入ってきており、5月17日現在で87.8%が終了している。

4回目接種については、7月から開始予定。4回目接種に係る費用については、6月定例会において補正する予定。

町民税務課

町営バスルート変更

町営バスの北部線の朝の便について、スクールバスと調整し、幸町と小学校を経由することとした。

マイナンバーカード
交付進む

マイナンバーカード

総務課

一般職の定年延長

一般職の定年を、令和5年4月から2年ごとに1歳ずつ引き上げていき、令和13年度には65歳となる。また、役職定年を取り入れる予定。

庁舎エレベーター改修

経年劣化等により役場庁舎のエレベーターの改修を6月から翌年3月の間で予定。8月は全面停止し、集中的に作業を行う。

の交付数は、令和4年4月末現在、3477枚、人口比48.0%で山形県内第2位。

総合政策課

地域支援職員派遣事業

地域支援職員派遣事業の試行的取り組みを行うため、先行モデル地区を選定する。

集落支援の手法や体制構築のあり方等について、地域の方々と町職員がともに学ぶ環境を作ることを想定し、情報交換の場などを設けていく。

マルチワーク

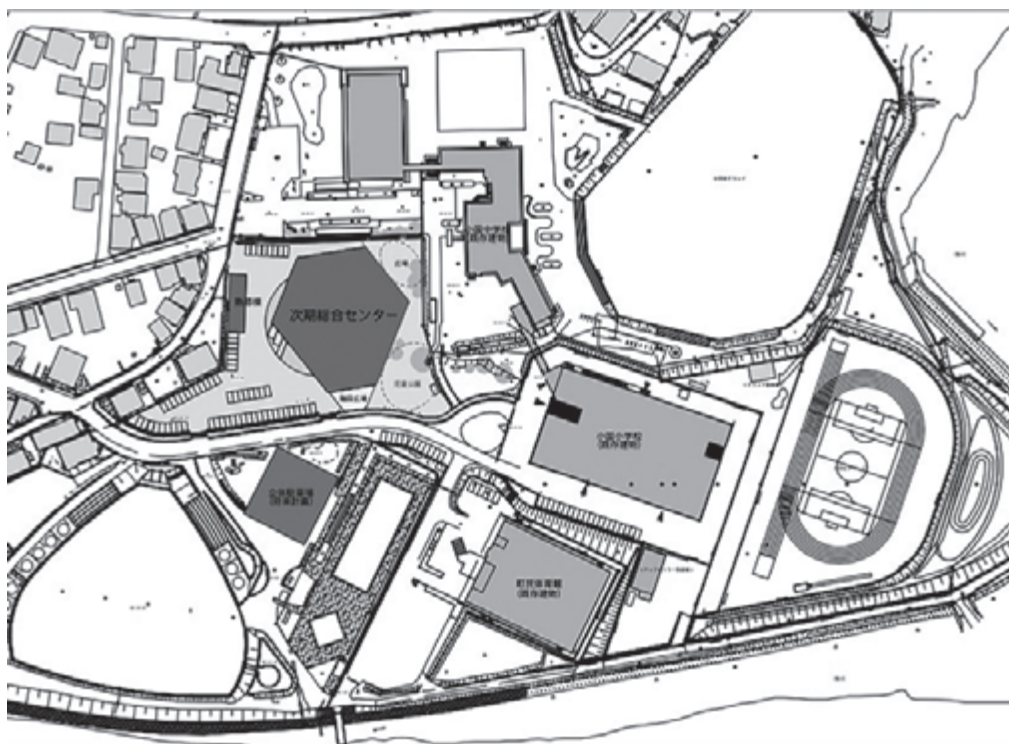
昨年10月に設立された、「おぐにマルチワーク事業協同組合」へ、国の制度を活用して補助金を交付する。現在、4人のマルチワーカーを雇用している。

次期総合センターの整備

特徴としてバリアフリー化、無落雪施設とし雪対策を考慮する。様々な活用ができるようレイアウト等を行う。まだ設計段階であり今後、町民説明を行いながら進めていく。

Q 維持管理経費が低くなるよう考慮した設計が必要では。無落雪となっているが、厳しい気象条件も考慮する必要があるのでは。

A 考慮していく。



文教産建

常任委員会

教育振興課

小国高校県外留学受け入れ状況

今年度は全国から、高校2年生に1年間在籍する地域留学生を5名、三年間在籍する新入生を7名受け入れている。

ICT環境すすむ

教育環境の整備については、児童生徒ひとり1台のタブレット端末の整備が完了したが、電子黒板を使用したICT教育をさらに推進する。

歴史民俗資料館の整備

旧伊佐領小学校を活用し展示方法、資料の整理等を進める。

中学校部活動の地域移行

教員の働き方改革の一端として部活動を地域移行する国の委託事業に採択された。今年度において調査研究を行うとともに、生涯スポーツ推進計画の策定を予定している。

Q 運動部だけが対象となっているが、文化部にも同じことがいえる。同時にやっていくべきでは。

A 県の動きがなく現時点では対応できない。県の流れに沿って進めていきたい。

おぐに保育園閉園準備

保育園の閉園に関して、記念パンフレットの作成や閉園式典を開催する予定で準備を進めている。

中央児童室開所時間延長

中央児童室については、開所時間を4月より30分延長し、午後6時30分まで児童を受け入れている。

地域整備課

新潟山形南部連絡道路

本年度、小国道路には山形県側に6億5千万円、新潟県側に6千万円の予算がついた。

町道の改良

長者原内川線、西田

沢頭線について継続実施するほか、新たに西長崎線の改良整備に着手する。その他、金目橋及び小玉川地内の湯の瀬橋の長寿命化工事を行う。

産業振興課

野生鳥獣調査

昨年度、生息が確認されたニホンジカ対策として、市野沢地内に緩衝帯を設置する。

ため池の監視

田沢頭のため池に監視カメラと水位計を設置する。

アンテナショップ

仙台におけるアンテナショップは、4月27日にリニューアルオープンした。





醸造所への改修が進み期待が膨らむ

道の駅機能拡充事業

あいあい裏に芝を張る工事を予定。

Q 道の駅イベントで金メダリストの平野歩夢選手を招いたイベントはできないか。

A 事務所の制約があり難しい。金メダル獲得ののぼり旗は、許可を得ている。

ウイスキー醸造所誘致

旧ゆーゆ跡地を活用した企業誘致について

ふるさと納税

米沢牛が九割以上を占めている。

Q ふるさと納税における返礼品の「わらび」の受付は早期に受付終了となっているが、わらびの生産日本一の町からの返礼品としては総量が少ないのでは。

A 先行予約で受付をしている。質のいい「わらび」を数量、期間限定で送っている。間違いのないよいものを確保するために期日限定にしている。



米沢牛が人気を占めるふるさと納税募集画面(HP一部抜粋)

総額2億1041万円を認定 影響と戦争の影

6月定例会の あらまし

6月定例会は、6月6日から13日までの8日間の会期で開催され、令和4年度各会計補正予算、条例の制定等を原案どおり可決した。

一般質問では5名の議員が町政全般について、町当局の考えを質した。今回の補正は、コロナ禍における、原油価格や物価の高騰に直面する低所得の子育て世帯に対する「子育て生活支援特別給付金」、及び新型コロナウイルス4回目接種に要する経費、人事異動に伴う職員の人件費、報酬の組み替え、期末手当支給率の引き下げに伴う減額、財政基金の積み増し等であった。また最終日には追加の議案が提出された。

主な一般会計補正予算

総務費

温水造成供給施設修繕費用

127万円

● 政府の「カーボンニュートラル」宣言を受けた地域の再生可能エネルギー導入目標設定等の調査検討経費
995万円

● ふるさとづくり総合助成事業

160万円

(出戸公民館のトイレを高齢者対応に改修するもの)

民生費

● 重度身体障害者に対する日常生活用具の給付の増加に要する所要額の増額
24万円

● 住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金
(1世帯10万円給付)
1000万円

● 特別給付金制度所要額

400万円

(物価高騰に直面する、住民税非課税の子育て世帯に対する18才未満の子供1人あたり5万円を給付するもの)

衛生費

● 4回目ワクチン接種所要額

904万円

(60歳以上及び18才以上で基礎疾患を有する方が対象)

農業費

● タブレット端末導入費用

15万円

(農地利用状況調査等に利用するもの)

● 農村暮らしづくり助成事業

88万円

(種沢地区の農業排水路改修費用)

● 創農チャレンジ給付金

120万円

(新規就農者1名)

● 原油・物価高騰に係る水稲生産農家緊急支援金
(10aあたり2、500円を支援)
1145万円

● 飼料高騰に係る和牛畜産農家緊急支援事業
(肥育牛1頭につき2万円、繁殖牛1頭につき1万円を支援)
486万円

林業費

● 森林サービス産業推進事業

385万円

(町全体を森林空間としてメンタルヘルス対策や人材育成・研修の場に活用し地域内外の多様な主体が関わる森林サービス産業を推進するもの)

商工費

● 地域経済活性化支援事業

738万円

(商工会が行うプレミアム商品券発行事業について、プレミアム率を20%から30%に拡充し支援するもの)

● 修繕費

265万円

(豪雪により損壊したオートキャンプ)

6月
定例会

令和4年度6月補正予算 続く新型コロナの

場の歩行者用の橋とトイレ棟屋根、木工館のダクト等の修繕に係る経費

● 工事請負費 1021万円

(山崎屋の屋根の葺き替えと横根スキー場第一ペアリフトの改修工事等)

土木費

● 建設工事費 1069万円

(金目橋・湯の瀬橋の補修工事について資材費の高騰が見込まれることから不足額を追加するもの)

● 設計、積算委託料

1600万円

(町道西田沢頭線道路改良工事の路線と河川等の道路詳細設計と橋梁設計の所要額)

消防費

● コミュニティ助成事業

200万円

(沖庭地区自主防災連絡協議会において発電機や毛布及び段ボールベット等の防災資機材を整備する所要額)

条例の制定

● 小国町白い森交流センター条例の一部を改正する条例の制定

(白い森交流センター「りふれ」について利用者のサービス向上を図るため利用料金の見直しを行うもの)

工事請負契約の締結

一 工事名

令和4年度小国町公共下水道事業
小国浄化センターストックマネジ
メント対策(建築改修)工事

二 契約金額(税込み)

5500万円

三 契約の相手方

山和建設株式会社
代表取締役 小山 剛

財産の取得

一 取得しようとする財産

除雪ドーザ 1台

二 取得予定価格(税込み)

2426万4317円

三 契約の相手方

コマツ山形株式会社米沢支店
支店長 栗田 忠行



森林サービス産業 推進事業とは

森林資源・空間の活用において新たな展開手法が求められているため、農林水産省の山村活性化支援交付金を活用し、森林空間をメンタルヘルス対策や人材育成・研修の場として活用していくことに着目しながら、地域内外の多様な主体が関わる森林サービス産業の推進を目指すこととなった。

陳情

女性トイレの維持およびその
安心安全の確保を求める陳情

◆陳情者

神奈川県大和市

女性スペースを守る会

LGBT法案における「性自認」
に対し慎重な議論を求める会

共同代表

飯野 香里・井上 恵子
永田 マル・山田 響子

国民の祝日「海の日」を7月20
日に固定化する意見書の提出
を求める陳情

◆陳情者

東京都千代田区

海事振興連盟

会長 衛藤 征士郎

沖縄を「捨て石」にしない安全
保障政策を求める意見書の提
出を求める陳情

◆陳情者

山形県鶴岡市

辺野古を止める！全国基地引
き取り緊急連絡会

代表 漆山 ひとみ

ちよつと解説

問 陳情と請願の違いは

答 陳情と請願は、要望等を議
会に訴える手段という点では
同じですが、形式が異なりま
す。

請願は、憲法で保障された
国民の基本的権利であり、そ
の方式や処理の手続きなどが
定められています。陳情は
定められていません。

また、請願は紹介議員が必
要ですが、陳情は必要ありま
せん。

当議会では、請願は担当委
員会で審査後、採決し本会議
でも採決します。陳情は、議
会運営委員会で協議し、議長
の判断で審査の必要が認めら
れない時は議員配付のみとな
っております。

陳情？ 請願？

臨時議会

第4回臨時議会

令和4年4月28日

あらまし

今回の補正は、農業者団
体の行う大豆生産拡大の
取り組みを支援するほか、
旧伊佐領小学校を歴史民
俗資料館として整備する
に当たり、地域おこし協
力隊を採用するための経
費など936万円の増額
を行うものである。

一般会計補正予算

■農業振興費

・補助金 602万円

■教育費

・報酬他 334万円

主な条例の制定

■一般職の職員の給与に関す
る条例等の一部改正

■小国町税条例等の一部改正

■小国町国民健康保険税条例の
一部改正

■小国町病院事業の設置に関
する条例の一部改正
(病床数を55床から45床にあ
らためるもの)

損害賠償の額の決定

救急患者を乗せて来院した
乗用車に病院建物屋上より雪
が落下して車に衝突し車両を
全損したもの

損害賠償額

80万2650円





動物愛護管理法の改正に伴う 小国町の措置について

ま みや ひさ え
間 宮 尚 江 議員

終生飼養の責務を

間宮 動物愛護管理法

は「動物の命の尊さ・大切さに鑑み、何人もみだりに殺し、傷つけ、または苦しめるだけでなく人と動物の共生に配慮しつつ、その習性を考慮して適正に取り扱うようにしなければならぬ」との基本原則のもと制定された。2020年より改正され第3段が本年6月1日から施行された。今後、学校における愛護教育の普及の試みを展開することは重要であり、特に一層厳しく刑罰化された法律があることへの学びも必要と考える。

また、飼い主のいない野良猫の繁殖を防止し、環境や衛生面に配慮した※地域猫活動「TNR」への啓発や官民連携による活動の推進は喫緊の課題では

ないか。

更には環境省の推進する災害時における同行・同伴避難に向け国や県と連動した保護対策の仕組みは構築されるのか。

最後に、ひとり暮らしの高齢者の急な入院や施設入所等によるペットの飼養上の課題に関する各課情報共有や適正な連携法策は成されているのか伺いたい。

普及啓発に努める

町長

学校教育において、動物を愛し飼い主としての責任を果たす学習と、虐待等に対する厳しい刑罰が科せられることは、重要な教育視点として捉えている。次に、地域猫活動に関しては、野良猫か否かの区別は難しい。屋内のみで飼養する「うち猫」の推奨や、地域からの相談には関係

機関との連携、協力は重要であると考えます。

また、災害時における避難所運営の詳細なルールづくり、同行・同伴避難への対応は今後の課題と捉えています。

最後に、高齢者とペットに関しては介護や福祉部門と動物の愛護管理部門で連携して取り組んでいる。

管理法に基づき、広く人間と動物が共に生きていける社会も目指す。

※地域猫活動TNR

「トラップ（捕獲）・ニュートナー（不妊去勢手術）・リターン（元の場所に戻す）」により地域猫として食事、排泄物処理を行い、地域の環境、衛生面に配慮しつつ、猫の一代限りの命を見守る活動」

犯罪です。

●愛護動物を殺傷した場合
5年以下の懲役または
500万円以下の罰金
●愛護動物を遺棄・虐待した場合
1年以下の懲役または
100万円以下の罰金

罰則が強化されました。

環境省 警察庁

動物の遺棄・虐待は

地域運営組織の 取り組みを急ぐべき

こ せき かず よし
小 関 和 好 議員



地域運営組織の再編は重要な課題

小関 以前から地域運営組織の重要性には言及しているが、少子高齢化の急激な進行により、日々の暮らしにおいても共助の必要な地域や家庭が増えていく。買い物・通院・ゴミ出しや雪の処理、地域の行事等、行政の細やかな対応が必要となっている。

このような問題を解決するためには、しっかりとした地域運営組織の存在が不可欠と考える。

小玉川に振興事務所ができてから10年が経とうとしている。地域運営組織の再編の取り組みは当町にとって、もっとも重要な課題と考えるが、町長の考えと計画を聞きたい。

地域と行政が一体となつて進めていく

町長 本町の地域には、以前から様々な組織・団体があり、その活動を通して実質的に地域を運営してきたと言える。ただ、それぞれの地域で取り組みの内容、進め方に異なる側面があり地域一体の活動に難しさを言っている。しかしながら、現在地域で取り組まれている実践活動を継続可能なものにし、町内にそうした事例の広がりを進めていくことが必要。な対応と捉えている。

昨年からの町職員の地域担当制の実践に向けて取り組みをしており、本年度も継続し地域と行政の連携の強化に取り組んでいく。

また、今年度は、町内にモデル地区を設定し、地域の皆さんと町

職員が集落コミュニティ機能のあり方について学ぶ機会を設定し、地域支援職員派遣事業に取り組むための仕組みづくりを進めていく。今後、地域と行政が一体となつて連携、協働を進めながら地域の支援、対応に努めていく。

集落は深刻な状況

小関 昔からの組織や団体は、担い手不足で存続が難しいところが出てきている。行政が考えているより事は深刻である。地域住民と行政の方向性があっているのか、もっと話し合う機会が必要である。



高齢化が進む共同作業



持続可能な まちづくりについて

わた なべ しげ のぶ
渡 邊 重 信 議員

渡邊 これまで持続可能なまちづくりについて、何度か質問してきた。都度、前向きな回答をいただいているが、今年度の政策方針にはSDGsへの取り組みは記載されていない。今後の持続可能なまちづくりについてカーボンオフセット・カーボンニュートラルの進捗状況について伺う。

脱炭素推進事業が採択された

町長 林業業者等や関係者を含む地域協議会を設置し、関係者が連携して進めていける仕組みづくり、木質バイオマスエネルギー導入を目指し、次期総合センターへの導入を検討。広葉樹の活用はまだ課題があり今後も引き続き検討していく。本年度は脱炭素推進事業に取り組む。

地域におけるカーボンニュートラルに向け、脱炭素化を図り、持続可能な地域の実現、地域循環共生圏を構築、2050年を見据え地域全体で目標を定め、合意形成を図る。地域、事業者、行政が一体となつて取り組む方向を整理し再生可能エネルギーを脱炭素効果のみならず、地域共生の再生可能エネルギー、地域づくり、地域経済の活性化を同時促進する事を目指していく。

今後の小国町としてSDGsへの取り組みは

渡邊 各課にSDGs項目を当てはめ、町民にも分かりやすい取り組みを。

町長 大切なことであるが、まずは職員が目的意識を持つて取り組む

むことが求められている。事業推進に当たり、工夫を重ねていきたい。最終的には、国によるSDGs未来都市へのエントリーも視野に入れて進めたい。

この一年間の取り組みは

渡邊 持続可能なゴールを目指し町民一人ひとりが何をやるべき

か、知ってもらおうプロジェクトが必要と前回も答弁いただいた。どのような活動をしたのか。

町長 若手職員と小国高校生でSDGsについて勉強会や各種町民向けの講座を開催した。

総合政策課長 参加される方が少なかつた。今後も継続的に広報活動や、民間のイベントと連携を図っていく。



小国高校生と町職員とのSDGs勉強会

持続する農業の 振興策について

えん どう かず ひこ
遠藤和彦議員



どうなる水田農業活用
支払交付金

遠藤 国の水田活用直接支払交付金の見直しで農家に不安視する声が広まっている。

現状を訴えていく

町長 本町でも交付金を最大限活用して需要に応じた米の生産に取り組んでいる。今回の見直し方針は、本町の営農の意欲低下による離農や中山間地農業の衰退など、本町の水田農業のあり方に大きく影響を与えることが懸念される。引き続き、農業の再生協議会、農業委員会と充分に意見交換を行ない、現場の課題や影響など関係団体が国、県に対して制度の拡充に関する要請を本町の現状と合わせて訴えていく。

そばの作付が減少し大豆の作付が拡大

産業振興担当課長 主食

用米が毎年減少する中、国は、飼料用米や麦、大豆等の転換による水田フル活用を進めている。主食用米からの転換を図る際には、経営所得安定対策等の交付金による支援を行ってきた。

中でも輸入量の多い麦、大豆の生産拡大を目指し「水田、麦、大豆産地生産性向上事業」を進めている。

今年度は町内で40ヘクタールの作付がなされる大豆の生産拡大を目指す二つの経営体に対して支援を行うこととした。

遠藤 今後町や地域にどのような影響があるかと認識しているか。

産業振興担当課長 主食

用以外どのような形で導入していくかが極めて難しくなる。所得減収はもちろんのこと※ブロックローテーションによって水張を行うつたとしても水稲と畑作物の交互の作付けによる品質の向上は見込めない。耕作放棄地が増大し農業を離れる選択も出てくるのではない

か危惧している。

※ブロックローテーション

水田を数ブロックに区分し、そのブロックごとに集団的に転作し1年ごとに他ブロックに移動し、数年間で地域内のすべてのブロックを循環する形態のこと

水田活用の直接支払交付金の見直し内容

	現 行 (令和3年度まで)	見直し後 (令和4年度から)
交付金の対象となる条件	あぜや用水路がなく、水張できない用地は対象外	現行ルールを再徹底し、今後5年間に1度も水張が行われない農地は対象外とする方針
飼料用米などの複数年契約	10㍍あたり1万2千円	令和2年、3年度産からの契約分は10㍍あたり6千円(令和4年度産からの契約分は対象外)
多年生の牧草	種をまかなくても収穫を行えば10㍍あたり3万5千円	種まき、収穫を行う年は10㍍あたり3万5千円 収穫のみの年は10㍍あたり1万円
畑地化の助成	品目を問わず10㍍あたり1万7千5百円	高収益作物は10㍍あたり1万7千5百円 その他10㍍あたり10万5千円

(農林水産省の資料を基に作成)



高規格道路と関連する 道路工事の取り組みは

こばやし よしみ
小林 嘉 議員

「小国道路」の進捗は

小林 高規格道路建設の進捗を聞きたい。

用地補償説明会の開催

町長 「小国道路」は国からの用地補償説明会が開催され、県が今年度から小国インターチェンジ（仮称）につな

がる県道五味沢小国線の道路拡幅事業を実施することになり、国と県がそれぞれ整備に向けて着実に進めていると捉えている。

アクセス道路の整備は

小林 「道の駅」まで高規格道路と並行した側道の建設運動を強力に展開すべきである。

側道の対象にならない

町長 アクセス道路の側道建設は難しいと思

っている。道の駅の施設を活かすためにも、どのような環境変化による整備手法があるのか、国や県に要望するだけでなく、町からこの課題解決手法を国・県の協力を得て検討を行っている。

南部への入り口改良は

小林 国道113号の交通事故多発地点の危険箇所である南部地区への入口改良は「小国道路」の建設計画に含まれるのか。

計画には含まれない

町長 南部地区への入口「梅花皮橋」の改良は、町の重要事業に掲げ山形県に要望してきた。令和元年11月に「南部地区道路改良期成同盟会」の要望活動に、県から「今以上に

河川に橋梁を張り出すことは難しく
①視線誘導標を外側に移動する
②旧道敷のガードレールを移動し幅員の確保やカーブミラーの鏡面を大きくする
③橋へのセンターラインと外側線の布設などで安全性や視認性の確保を図る」と、回答が

あり対応されている。町の要望の際には、「待避所として拡幅可能な箇所の検討も継続して行う。国交省にも効果的な安全対策を求めていく」との回答を得ている。梅花皮橋の改良は南部地区の振興発展に重要であり早期実現に向け取り組む。



改築が求められる梅花皮橋

令和4年度

各常任委員会活動方針

総務厚生常任委員会

活動方針

地方自治を取り巻く環境は、人口減少、少子高齢社会の進展、社会保障制度の限界等ますます将来が見通せない状況となり、まちづくりに大きな影響を及ぼしている。

このことから、人口減少の抑制に向けた取り組みとともに、関係人口の拡大を目指すなど、町づくりにおける次代を展望した仕組みづくりが求められている。当委員会はこのことを踏まえ、議会活動計画に基づいた各種活動に取り組む。

(1) 白い森の国を担う「人」づくり

- 移住定住促進事業
- 次期総合センター建設事業
- 集落等の活性化施策、地域再生に関する取り組み

(2) 白い森の魅力を磨く「環境」づくり

- 高齢者等暮らし応援事業
- ふるさとづくり総合助成事業
- コミュニティ助成事業
- 保育行政に関する取り組み
- 空白地運送支援事業

(3) 白い森を舞台とする

- 地域包括ケアタウンについて

(4) 新型コロナウイルス感染症防止対策

- 新型コロナウイルス感染症防止に関する取り組み

文教産建常任委員会

活動方針

地方自治を取り巻く環境は、人口の減少、少子高齢社会の進展などによる過疎化の波が、まちづくりに大きな影響を及ぼしている。

このことから、人口減少の抑制に向けた取り組みとともに、町づくりにおける次代を展望した仕組みづくりが求められている。

当委員会としては、このことを踏まえ議会活動計画に基づき、各種活動に取り組む。

(1) 白い森の国を担う「人」づくり

- 小国高校県外募集支援事業
- 高校生の地域留学推進のための高校魅力化支援事業
- 閉校校舎維持管理事業
- 歴史民俗資料館整備事業

(2) 白い森の魅力を磨く「環境」づくり

- 有害鳥獣被害対策事業
- 道路改良整備事業

(3) 白い森を舞台とする

- 道の駅機能拡充事業
- 多面的機能支払事業
- 白い森みらい創生事業
- 白い森特産品ブランディング推進事業
- 地域共同・販路開拓事業支援事業

(4) 新型コロナウイルス感染症防止対策

- 新型コロナウイルス感染症防止対策事業（経済対策）に関する取り組み

広聴広報常任委員会

活動方針

町民に開かれた議会と町民参加の推進、町民の意見の確な把握と実現に向けて、当委員会としては、議会活動計画に基づき、各種活動に取り組む。

(1) 高校生との意見交換会の開催

(令和4年12月14日)

次年度意見交換会開催にかかる関係機関協議

(2) 議会議員と語る会の開催(6～8月)

3団体(地域団体、スポーツ団体、文化団体等)

※コロナウイルス感染症の収束状況を鑑み時期を設定

(3) 議会だよりの発行

(7月・10月・1月・4月)

(4) 研修

7月14日(木)

県町村議会議長会広報研修会



西置賜
行政組合より

高規格救急自動車が 小国分署に配置予定



高規格救急自動車のイメージ

自動式人工呼吸器や半自動体外式除細動器など最新の機器を装備した救急自動車配置されます。

小国町の救急体制に寄与することが期待されます。

わたしも
おぐに町民

奥さんとCedric Blattnerさん

プロフィール

セドリック・

ブラットナーさん

43歳

出身国 スイス(ジュネーブ)フランス語圏
小国町大字大石沢在住
*「お食事処ほたる」で蕎麦打ち、基督教独立学園英語講師、カフェ「Naebacco」でコーヒー焙煎担当とマルチに活動中です。
奥さんのひかりさん、二人の娘さんと生活しています。

Q 小国町での生活はどうですか。

A この町の自然は素晴らしい。自然の中に住みたかったし、それは、一生で一番大切なことであり、自分の力になります。人間も優しい。蕎麦打ちという日本の文化に携わっているが、注目してくれて、認めてくれて、ことは嬉しいです。



コーヒー焙煎の様子

Q スイスも自然豊かな印象がありますね。

A スイスではハイキングガイドをして、食材巡りや牧場巡りもしました。山が大好きです。

Q 日本の森林の印象はどうですか。

A 日本の自然は人の手が介入されていない厳しい印象で、スイスのように気軽に散歩に行くような感覚で山に入れないですね。

Q この町でのこれからの目標は。

A 8月に「A touch of the wind」という自然ガイド業を開始します。小国町で可能なアクティビティを提供していきたいです。そこで新しい自分を発見する、また他の人の新しい面を見つけないかというのを、子ども達や都会の人にも紹介していきたいですね。

Q 具体的には。

A スイスでもしていました、ブッシュユクラフト(町で生活していても、あえて自分から自然に歩み寄るという手法)を核

にしていこうと考えています。

火を自分でおこしたり自然界の仕事という体験を通して「生きている」という再発見をしてほしいですね。

英語版と日本語版でホームページを開設しました。町外、国外と広く紹介していきたいです。現在募集中ですが、8月から小国町でキャンプを企画しています。

山を愛する心が伝わってきました。ありがとうございました。

(文責 間宮)



火をおこしてくれました

次は9月定例会です。傍聴どおしください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局(62)2448

編集後記

夏山の緑が一層濃くなって参りました。

今月は今年6回目の三連休となる海の日が間もなくですね。海に山にと、出かけの機会が増える季節になりましたが、無理のない計画のもと安全に有意義な休日をお過ごし下さい。

さて、議会広報も4名のモニターさんのアドバイスを、ご意見を参考にさせていただきますながら編集作業を重ね今号の発行に至りました。

153号はいかがでしたでしょうか。

また、6月には3つの諸団体の方々と「議会議員と語る会」を開催しております。詳しい内容は次号でお知らせしたいと思います。

暑さ厳しき折、町民皆様のご健康を議員一同お祈り申し上げます。 間宮(記)

発行責任者

議長 高野 健人
副委員長 小関 和好
委員 伊藤 弘行
渡邊 重信
柴田 伸也
間宮 尚江
小林 嘉

副委員長

委員